

## トキと共に生きる！！

佐渡での生物多様性によるIPMの展開



佐渡トキの田んぼを守る会 斎藤真一郎

## 人と環境に優しい農業の実践

- 動機 2001年～
  - 我が身への危険回避
  - 住宅地に隣接する園地
  - 消費者の「安全・安心」ニーズの拡大
  - 国・県特別栽培農産物認証制度の浸透
  - エコファーマーの取得
  - オンリーワンの生産
  - 環境支払い制度の試行(H13)
  - トキの野生復帰

## 齋藤農園 の 経営概要 H21

水稻 14 ha

無農薬・無化学肥料栽培 0.9 ha

8割減無栽培(除草剤1回のみ) 3 ha

5割減減栽培(ガイドライン 県認証米) 10 ha



将来無農薬・無化学肥料栽培と8割減無栽培に移行

2

## ハウスいちご 17 a



- 特別栽培認証  
県内は佐渡の2戸のみ
- 環境型高設栽培  
農家考案のもみがら培地  
使用の低コスト循環型、  
高食味のるんるんベンチ



### 低減の取組

微生物農薬、天敵、  
重曹等の使用

3

## おけさ柿 1.6ha(内1.4ha 県認証)



- 県内唯一の特別栽培  
ただ今オンリーワン
- 害虫との共存  
選果場との共存
- 外観、大きさよりも食味  
重視

### 低減の取組

- 微生物農薬の使用
- 草生栽培
- ボルドー液の適期使用
- 販売先の確保



4

## りんご 60a・ネクタリン60a



- 減農薬栽培で大失敗
- 太陽の恵みを最大限に  
生かす
- 量よりも品質、味で勝負  
するため疎植栽培

### 低減の取組

- 草生栽培
- フェロモン剤等の使用
- 有機質肥料の使用



5

# 美しい島 佐渡を目指して

～人とトキが共に生きる島づくりを農業から創造します～

## 2001年「佐渡トキの田んぼを守る会」発足

2001年 7名 2ha      2008年 18名 26ha

2008年9月25日 10羽のトキを放鳥

### トキのえさ場として田んぼを有効活用

ふゆみずたんぼ、江の設置、遊休農地のビオトープ化

### 無・減農薬 無・減化学肥料栽培の推進

朱鷺と暮らす郷認証制度開始

朱鷺と暮らす郷づくり推進協議会の設立

### 消費者との交流

生きもの調査による「安心」の発信(年4回)

6

## 朱鷺と暮らす郷づくり認証制度

化学農薬・化学肥料の削減  
栽培期間中、佐渡地域の  
慣行比5割以上減とする

生きものを育む技術  
安全・安心な米の栽培と多様な  
生きものを育む水田環境を作る  
技術とする



平成20年 452ha → 平成21年 900ha  
平成24年 ? ha  
(佐渡市の稲作面積 6,000ha)

7

生きものを育む技術 その1

生きものと景観を育む「ふゆみずたんぼ」



H20年 800haのふゆみずたんぼの出現

生物多様性の島へ 団地化事業 40ha

8

生きものを育む技術 その2 その3

ビオトープおよび「江」の設置



その4  
魚道の設置



9



中干時の  
避難場所

2009.1/10~11  
「佐渡からはじめよう  
研修会」  
有効なビオトープ  
造り実践研修



10

## カエルのかえる道 の設置



人間の優しさがにじみ出るような田んぼをつくる！

11

# アマガエルの食性調査

宮城県北小塩地区 (H20.7.30)



アマガエルの胃と  
内容物(カスミカメムシ類)  
NPO法人たんぼ 岩瀬成紀 氏ほか

カスミカメムシ類の例

12

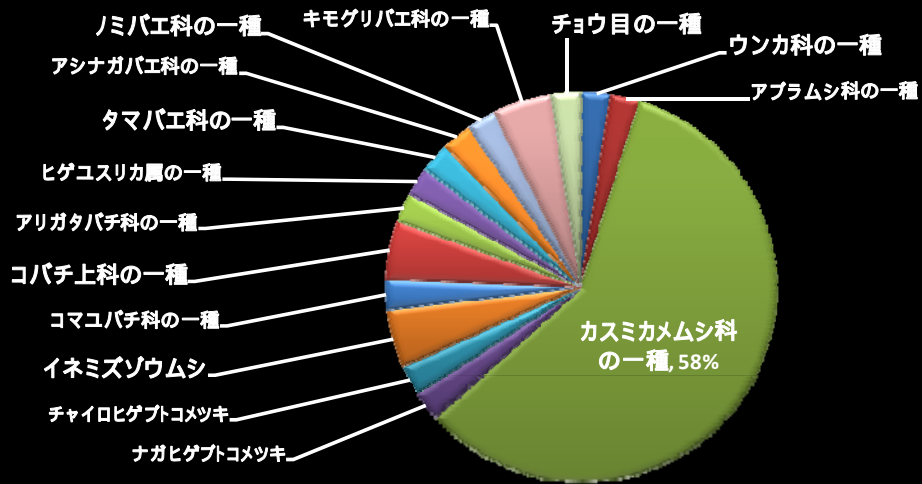
# 斑点米カメムシ類による被害米



(写真提供:新潟県農業総合研究所 石本万寿広 氏)

13

## アマガエルの食性割合(宮城北小塩H20.7.30)



アマガエル(10匹)の食性割合を整理すると、16種が確認され、60%と高い割合でカスミカメムシを捕食している事が確認された。

14

クモやカエルが殺虫剤！  
安心を導く「生きものの力」を借りた米作り



15



## 人・トキ・生きものと共生を目指したお米



無農薬・無化学肥料栽培米トキひかり

新潟県トキ保護募金付 100円 / 60kg



佐渡米のスタンダードとしたい  
生きものを育む農法米  
佐渡市トキ保護募金付 1円 / 1kg

16

## 消費者との交流

### 消費者参加の生きもの調査と草取りツアー



17

## 生きもの調査を体験して

### 営農における生きもの調査

- ・農家が、田んぼの環境がどのように変わったのかを認識する手段。
- ・環境の荒廃、回復、命の豊かさ、人間と自然のつながりを再確認。
- ・生きもの = 安心
- ・農産物の安心指標として利用
- ・子供に帰れる空間

### 子どもたちは

お米がどこで育っているか、そこは多様な命が共に存在する楽しく、にぎやかな空間で、情緒豊かな人間性を育みます。

田んぼに帰ってきた子供たち



良い子は田んぼで遊びます！！

18

## 田んぼの価値観の変化

水田……米を作る生産工場

(低コスト 高収量 経済重視)



**田んぼ**

生活環境の維持、生きものも育む場所

「農」のめぐみ(環境、風景、生きもの)

を食糧にのせて消費者に伝える。



トキと暮す佐渡市の果たす役割は大きい

19

# IPM から IBM へ

## 総合的 생물多样性管理

(Integrated Biodiversity Management)

病害や害虫だけを管理するのではなく、すべての生きものが大発生するのでもなく危機に瀕することもなく、ほどほどに安定的に生きていけるようにする。



農業こそが作れる世界であり、作れないと意味がない。  
(宇根 豊氏)



消費者が求める、安心・安全と合致するのでは？

20